

III 和歌山市の景観形成の理念・目標

和歌山市は、和歌山城、和歌の浦に代表されるような景観資源のほか、先述した農村景観など景観的に様々な特徴を有しており、近年では、「守り、育み、活かす」活動がさまざまな場面で展開されています。

この章では、今後、本市が景観を活かしたまちづくりを推進し、個性的で都市の存在感と暮らしに誇りが持てる景観形成に取り組むための理念・目標を設定します。

1. 和歌山市の景観形成の理念

**紀の川・紀伊水道の豊かな自然、
古墳・万葉・城下町の歴史・文化を礎とした
美しく風格のある和歌山市の景観づくり**

和歌山市は、水量豊富な紀の川下流の平野部に位置し、東部を中心に牧歌的な田園景観が広がるとともに、西部の海岸線では、和歌の浦などの美しい自然景観を有しています。また、古墳・万葉の時代から脈々と受け継がれてきた永い歴史・文化が継承されており、和歌山城を中心に繁栄した城下町が現在のまちの骨格を形づくってきました。その後、戦災により市街地の大半を焼失しますが、市民の懸命の尽力による復興を経て、現在は、紀北の中核都市として目覚ましい発展を遂げ、今日の豊かな自然と歴史・文化を背景とした和歌山市らしい景観が形成されています。

これらの景観は、豊かな自然の上に、先人たちがたゆまぬ努力と時間をかけて創りあげてきたものであり、私たちはこれらを誇りとして再認識し、次の時代にも誇れる和歌山市の景観を創っていかなければなりません。

私たちは、郷土に誇りと愛着を持つとともに、かけがえのない共有財産である和歌山市らしい良好な景観を市民、事業者、行政が一丸となって形成していきます。

2. 和歌山市の景観形成の目標

本市の景観の重層的な立ちや、景観の特性、そこで展開されているさまざまな守り、育み、活かす活動に着目し、以下の目標を掲げます。

(1) 紀の川の下流域に形成された山地や川、海（湾）などの豊かな自然を大切にす

紀の川に生まれ、紀伊水道の海（湾）に面した骨格となる豊かな自然を、本市独自の景観の魅力として大切に守り育みます。

(2) 古墳・万葉の時代から城下町を経て永く積み重ねられてきた歴史・文化を再認識し、まちづくりに活かす

古墳・万葉の時代から城下町の時代へと、永きにわたって脈々と積み重ねられてきた本市の歴史・文化の蓄積にまなざしを向け、これからのまちづくりに積極的に活かします。

(3) 日々の暮らしや活動の中で育まれる景観にもまなざしを向け、まちとの関係を意識した景観形成に取り組む

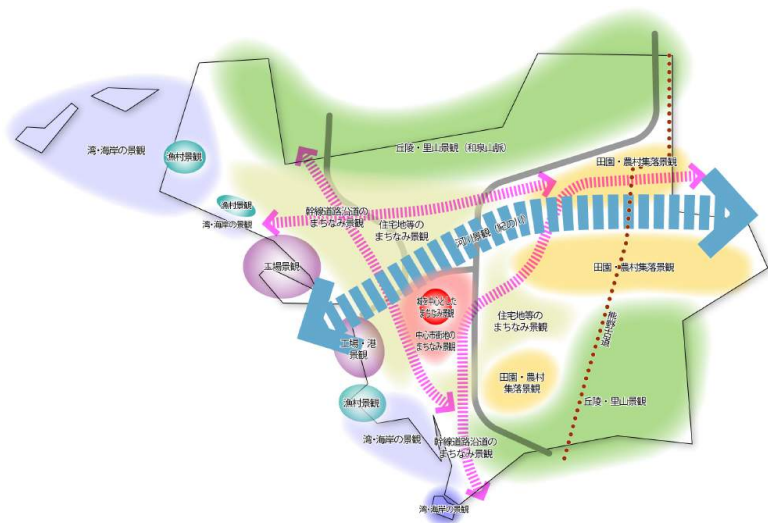
日々の暮らしや事業活動の中で育まれる景観にもまなざしを向け、それらの一つ一つが景観を形づくっていることを認識し、自然や歴史、市街地形成の経緯や周辺環境など、まちとの関係を意識した景観形成に取り組みます。

また、地域にある資源を積極的に活かし、人とまちとの関わり、人が集まる仕掛けを通じて、生き活きとした景観を育み、まちの新しい魅力を生み出す景観形成に取り組みます。

(4) 良好な景観の形成に向けて、市民、事業者、行政が力をあわせてまちづくりに取り組む

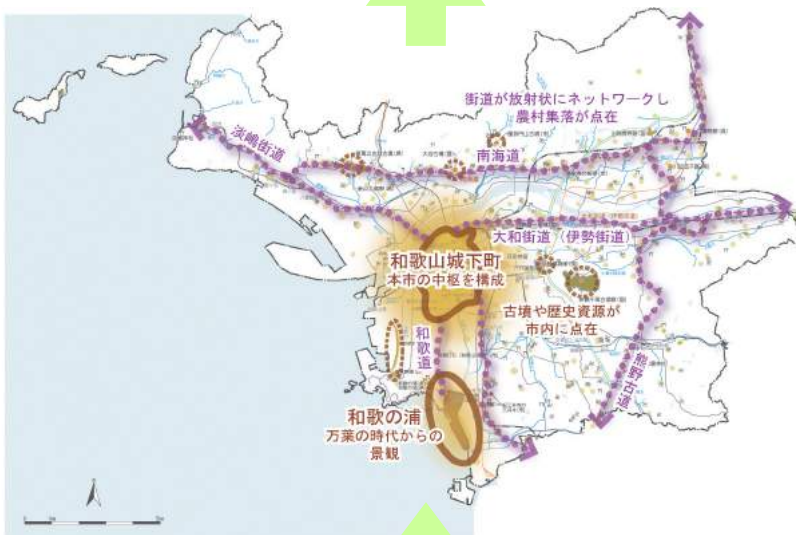
景観は、様々なまちづくりの積み重ねの結果としてでき上がっているものであり、各主体が力をあわせて景観を意識したまちづくりに取り組みます。

本市の景観の重層的ななり立ちに着目した景観形成



目標(3)

日々の暮らしや活動の中で育まれる
景観にもまなざしを向け、まちとの関
係を意識した景観形成に取り組む



目標(4)

良好な景観の形成に向けて、市民、
事業者、行政が力をあわせてまちづ
くりに取り組む

目標(2)

古墳・万葉の時代から城下町を経て
永く積み重ねられてきた歴史・文化
を再認識し、まちづくりに活かす



目標(1)

紀の川の下流域に形成された山地や
川、海(湾)などの豊かな自然を
大切にす